

社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク 2015 年度 事業報告書

<実施期間>

2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日

<2015 年度の方針>

(1) NPO/NGO が自ら取り組む社会的責任（以下、SR）の普及
NPO/NGO が自らの組織で取り組む SR を推進するため、具体的な取り組みを紹介し共有する機会を広げる。

→ブックレットによる啓発活動に加え、今年度は NN ネットウェブサイト「SR 実践ツール集」として、SR に関する活用ツールや他団体の情報をまとめたコーナーを新設した。

<http://sr-nn.net/ngonposr/tool>

(2) 他セクターとの協働による SR の普及
さまざまなセクターと連携して SR への取り組みを促進するべく、NN ネットは NPO/NGO の取り組みの成果を他セクターと共有し、また他セクターの取り組みからも学ぶとともに、他セクターの SR への取り組みを促す NPO/NGO を育成・サポートする。

(3) 社会的影響力のある課題に対するアドボカシー（政策提言）の強化
2020 年の東京オリンピック・パラリンピックなどの社会的影響力の大きなイベントで社会的責任が果たされることの重要性、具体策を提言していくとともに、地球環境問題、貧困問題などの国際的な課題へのアプローチの過程で SR への配慮がなされること、またその担い手自身が社会的責任を果たしていくことの必要性を訴える。

→SR 円卓会議運営委員会へ「多様な主体による協議を要すると考えられる重要課題についての協議・検討の提案」を提案し、「社会的責任に関する円卓会議における 2016 年度以降の取り組みに関する提案について」を提出。持続可能な消費・調達に関する地域円卓会議の開始／SDGs に対する各省庁の取り組み（方針・計画・実績など）のヒアリングを提案した。オリンピック・パラリンピック 2020 東京大会 NGO/NPO 連絡会との情報共有にもつとめた。

(4) マルチステークホルダープロセスの推進
あらゆる政策決定、特に地域課題に対するアプローチで、マルチステークホルダープロセスが導入され、課題を取り巻くさまざまなステークホルダーが相互に力を出し合い、課題解決に導けるよう、マルチステークホルダープロセス手法の確立、普及に努める。

→SR フォーラム 2015 において、マルチステークホルダープロセスを通じた変革について取り扱った。

<2015 年度の事業報告>

1. 啓発事業

[主旨]

日本における「SR のあるべき姿」の具体化へ向けて、引き続き ISO26000 の普及活動や SR 円卓会議での動きの報告・共有を行うとともに、特に、マルチステークホルダープロセス（以下、MSP）等の手法も活用しながら、国内における NPO/NGO の SR の取り組みを広げることには主眼を置き、より地域に密着した SR の実践事例紹介や、自団体での取り組みを促すための発信・学習機会づくりを提供していく。政策提言事業や各会員団体の事業等とも連携しつつ効果的な啓発活動を行う。SR や MSP の概念の共有をめざし、社会の動向を踏まえた取組みを行う。

[事業内容]

(1) 本ネットワークの政策提言につながる事業の共有、情報提供
従来通り、ISO26000 の普及活動や円卓会議での動きの報告・共有を行いつつ、今年度も引き続き地域での MSP の活用や SR の実践事例をグッドプラクティスとして積極的に集め紹介するとともに、自団体、あるいは地域での SR の取り組みを促す機会を啓発事業として提供した。

以下のフォーラムを開催した。

i) 「SR フォーラム 2015 ～マルチステークホルダー・プロセスで課題解決！地域・企業の実践現場から」

日時：2015 年 5 月 27 日（水） 18:30～21:30

会場：3x3Labo（さんさんらぼ）（東京都千代田区）

参加者数：40 名

登壇者：

- ・大野 覚氏（認定特定非営利活動法人 茨城 NPO センター・コモンズ事務局次長・いばらき未来基金事務局担当）
- ・和田 征樹氏（株式会社 Energetic Green）
- ・古谷 由紀子氏（サステナビリティ消費者会議代表／消費者教育推進会議委員）

「マルチステークホルダー・プロセス」の手法を現場でどのように活かし、実践していくかをテーマにフォーラムを開催した。登壇者から共有された実践事例をもとに、参加者を交えて、「子ども」「開発における環境・人権」「地域」「企業・市民」「防災」「持続可能な社会」などの様々な分野で、マルチステークホルダー・プロセスの活用の可能性について、ディスカッションをおこなった。

※詳細については、WEB サイトの報告を参照。

<http://sr-nn.net/archives/3815>

ii) 「SR フォーラム 2015 in 名古屋開催— 調達・購買を通じた持続可能な社会づくりのために—」

日時：2015年11月21日（土）15：30～18：00

会場：名古屋市市民活動推進センター 集会室（愛知県名古屋市）

参加者数：17名

登壇者：

- ・原田 さとみ氏（フェアトレード名古屋ネットワーク 代表）
 ゲストトーク【フェアトレードタウン認定への歩み・地球とのフェアトレード】
- ・富田 秀実氏（LRQA ジャパン事業開発部門長）
 事例報告1【社会責任調達の世界的潮流—ISO20400 発行に向けて—】
- ・山田 厚志氏、金田 学氏（愛知 CSR 推進研究会 GSR 部会）
 事例報告2【行政における社会責任調達の推進—あるべき制度の検討】
- ・川北 秀人（IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]/NN ネット幹事）
 事例報告3【企業・業界としての CSR 調達への取組】

《主催》社会的責任向上のための NPO・NGO ネットワーク（NN ネット）

《共催》一般社団法人 SR 連携プラットフォーム

《協力》社会♡責任あいち・愛知 CSR 推進研究会

調達・購買をテーマに、注目されているポイントや世界の潮流のアップデート、市民・企業・行政それぞれの取組み事例の共有、今後に向けた課題や連携について、ディスカッションをおこなった。

※詳細については、WEB サイトの報告を参照。

<http://sr-nn.net/archives/4237>

(2) SR 推進のためのコンテンツ・パッケージづくり

情報チームと連携して NPO/NGO が自組織の SR の実践に取り組むときに参考になるツールについての情報を収集、整理を行い[SR 実践ツール集]<http://sr-nn.net/ngonposr/tool>として新たなコンテンツをウェブ上で公開した。

(3) SR セミナーの開催呼びかけ

EPC と共催で、SDGs に関する勉強会を開催し、SDGs について理解を深めるとともに、NN ネットの活動紹介と、マルチステークホルダーの必要性などについて話した。

10月14日東京、11月19日札幌にて開催。

(4) SRの普及・啓発のための活動

当初、SRの普及啓発を目的に、SR川柳の募集と表彰を計画していたが、普及効果を踏まえて、クロスワードパズルの作成に変更し、実施した。

具体的には、SR関連の理解を深めるために、NNネットのWEBサイトに記載されている、SR関連用語を盛り込んだ、クロスワードパズルを作成し、SRの理解度をチェックできるツールとした。

2. 情報発信・広報事業

[主旨]

NPO/NGO の SR への関心を高め、行動を促していくことは、NPO/NGO が社会的な信頼を獲得し、他セクターと協働して社会的課題を解決していくために必須である。SR の意識向上および NPO/NGO 間の取組の共有や連携、議論のプラットフォームづくりを目的に、情報を発信していく。

[事業内容]

(1) NN ネットの活動の案内および報告

NN ネットのウェブサイト、メーリングリスト、Facebook、Twitter などを通じ、「啓発事業」や「政策提言事業」に関する活動案内・報告を発信した。主催イベントについてはプレスリリースを作成し、発行した。

(2) ブックレットを活用した啓発活動

主催・共催・後援イベント会場で、ブックレット『策定に関わった NPO が読み解く ISO26000』15 冊、『これからの SR—社会的責任から社会的信頼へ』11 冊を頒布した。また、SNS など
でブックレットを紹介し、各団体での研修や勉強会での活用を呼びかけた。

(3) SR に関する情報の発信

SR に関する活用ツールや、他団体の情報をまとめた「SR 実践ツール集」というコーナーをウェブサイト
に新設し、会員メーリングリストや SNS で周知した。コンテンツの作成に際しては情報発信・広報事業担当のみならず、啓発事業担当など他の幹事団体によるタスクチームにより
分担して作業した。(参考 URL <http://sr-nn.net/ngonposr/tool>)

また、SR に関する情報・意見を会員団体にも呼びかけて発信する「NN ネットコラム」では、
上述した「SR 実践ツール集」ともリンクする各団体の SR に関する取り組みをまとめた他、ヒュー
ライツ大阪（一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター）から寄稿いただいた。

3. 政策提言事業

[主旨]

社会的責任に関わる国際規格 ISO26000 発行および JIS 化を受けて国内の普及、啓発に関する
こと、策定中の持続可能な調達に関する国際規格 ISO/PC277(ISO20400)に関すること、日本国
内の動きとして 2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに関すること、「社
会的責任に関する円卓会議」などについて事業を推進する。関連する会議に、本ネットワー
クの代表協議者を派遣し、勉強会を開催するなどその内容を広く本ネットワーク会員をはじめと
する NPO/NGO 関係者と共有する。

[事業内容]

(1) ISO26000 発行後の情報共有など

ISO26000 に関し、2013 年度に再結成された「ISO/SR 幹事会」の NGO 委員に NN ネット代表
協議者（黒田、堀江）が参加し、ISO26000 の活用方法や、普及に関して他のステークホルダ
ーの委員らと情報共有や意見交換を行った。また、同規格の策定に関わったエキスパートを中
心に構成され、同規格について広く情報交換する場である ISOSR エキスパート懇談会に、黒
田、堀江が参加した（7 月 31 日、12 月 1 日）。

また、黒田は ISO26000 の発行後の組織（PPO: Post Publication Organization）の NGO ステ
ークホルダーグループのメンバー代理を務めた。

(2) SR の普及をめざしたイベント、セミナーの開催

啓発チームと連携して SR 普及のためのイベント、セミナーを開催した。

・「SR フォーラム 2015 ～マルチステークホルダー・プロセスで課題解決！地域・企業の実
践現場から」（2015 年 5 月 27 日）

・「SR フォーラム 2015 in 名古屋開催— 調達・購買を通じた持続可能な社会づくりのため
に—」（2015 年 11 月 21 日）

* イベント・セミナーの詳細は、「1.啓発事業」を参照。

(3) 国際会議への参加

2015 年 10 月 20 日、21 日に開催された ISO26000 の PPO 会議（スウェーデン、ストックホル
ム）および国際フォーラムに代表協議者派遣を予定していたが、都合が合わず、参加を見送っ
た。代わりに 12 月 15 日に同会議に参加した熊谷謙一 PPO 委員を招き、報告会を開催した。

(4) PC277 (ISO20400)の策定過程への関与

策定中の持続可能な調達に関する国際規格 ISO/PC277 (ISO20400)に関し、同規格に関する国
内検討 WG の NGO 委員に NN ネット代表協議者（黒田、堀江）が参加し、草案に対して NGO
セクターのコメントを集約して提出するなど、議論に加わった（4 月 21 日、7 月 31 日、2016
年 1 月 13 日）。なお、コメントの集約に当たっては、NN ネット会員団体以外の NGO も招き、

コメント検討会を2回開催した（4月14日 PC277 CD3 コメント最終検討会、12月15日 PC277 DIS コメント検討会）。

（5）東京オリンピック・パラリンピックに関する勉強会の開催

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを社会的責任のあるものにしていくため、またSRやサステナビリティを社会に浸透させる機会にするために、9月15日NPO/NGO関係者や企業セクターなどと「ISO20400（持続可能な調達）規格および東京オリンピック・パラリンピックに向けた持続可能な調達勉強会」を開催した。

（6）社会的責任に関する円卓会議（以下、SR円卓会議）への参画と推進

SR円卓会議に本ネットワークの代表協議者が委員を継続した。2015年4月20日の有志学習会に運営委員を含むNNネットメンバーが参加した。テーマは、①ポストMDGs/SDGs ②エシカル消費推進につながる消費者教育 ③地域における防災・減災 ④日本版スチュワードシップ・コード の4つであった。また、2016年3月4日、第38回運営委員会に出席した。

2015 年度組織運営（事務局業務）報告

<実施期間>

2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日

<業務計画>

1. 会議等の業務

(1) 第 8 回 通常総会の開催

日 時：2015 年 5 月 27 日（水）17：00～18：00

会 場：3 x 3 labo（さんさんらぼ）（東京都千代田区）

議 題：

- ・2014 年度事業報告・決算の承認
- ・2015 年度事業計画・予算の承認
- ・NN ネットからの代表協議者の選出について
- ・その他

(2) 幹事会の開催

- ・第 81 回幹事会 2015 年 4 月 14 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第 82 回幹事会 2015 年 5 月 19 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第 83 回幹事会 2015 年 6 月 16 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第 84 回幹事会 2015 年 7 月 21 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第 85 回幹事会 2015 年 8 月 18 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第 86 回幹事会 2015 年 9 月 15 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第 87 回幹事会 2015 年 10 月 20 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第 88 回幹事会 2015 年 11 月 17 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第 89 回幹事会 2015 年 12 月 15 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第 90 回幹事会 2016 年 1 月 19 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第 91 回幹事会 2016 年 2 月 16 日（火） 場所：JANIC
- ・第 92 回幹事会 2016 年 3 月 15 日（火） 場所：日本NPOセンター

2. 会員に対する業務

(1) 会員へのフォローアップ

- ・会員の入会、継続、休会等に伴う業務を行う。
- ・会員メーリングリストの運営と管理を行う。
- ・会員に対して、幹事会終了後、幹事会議事概要および次回幹事会日程を会員メーリングリストに配信する。

(2) 会員データベース管理

- ・会員情報の整理と管理を行う。

3. 経理等の業務

(1) 日常的な会計

- ・円滑な業務執行を行うために、現金等の動きについて記録し、資金の動きを明確にする。

(2) 資金管理と検査

- ・現預金などの日常の管理状況を検査する業務を行う。
- ・より本ネットワークの資金状況を把握するために、引き続き決算を活動計算書で報告する。

4. 総務関連の業務

(1) ウェブサイト管理・運営に関する業務

- ・ウェブサイトの管理・運営を行う。

(2) 什器備品等の管理

- ・什器備品の発注や管理等についての業務を行う。

5. その他

- ・日本 NPO センターが事務局を担う。

以上